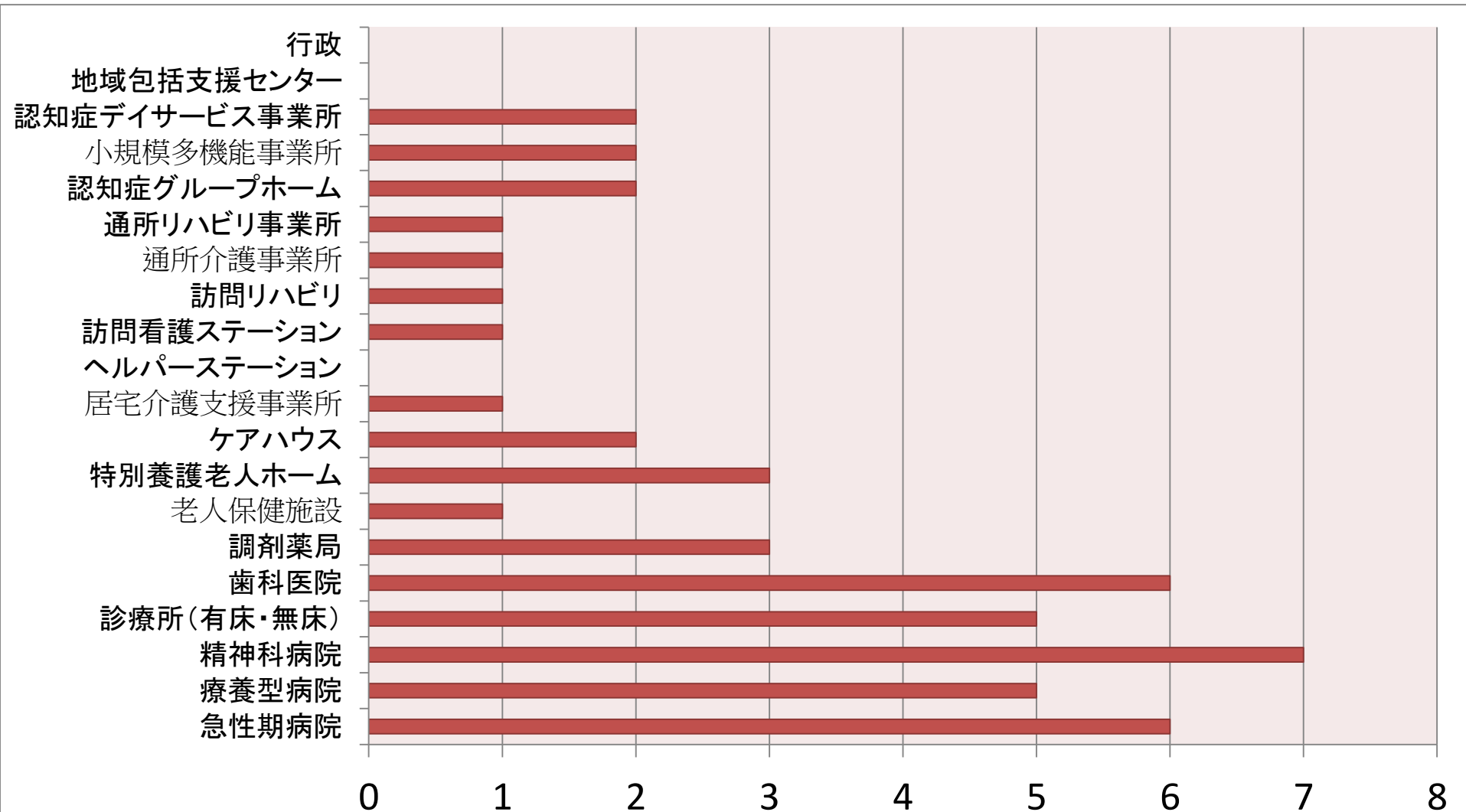


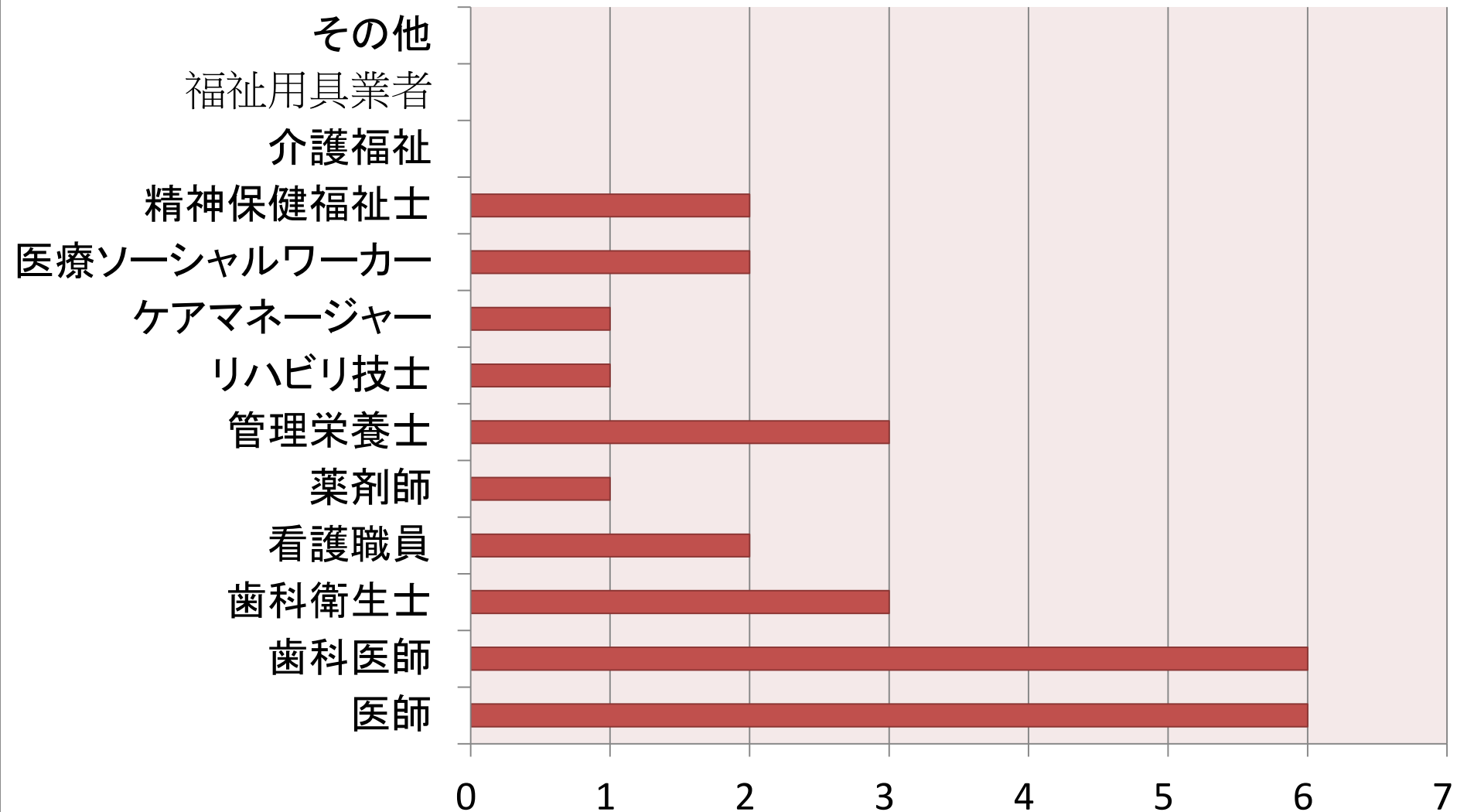
在宅医療推進事業アンケート結果 (平成25年 9月)

(居宅系サービス)

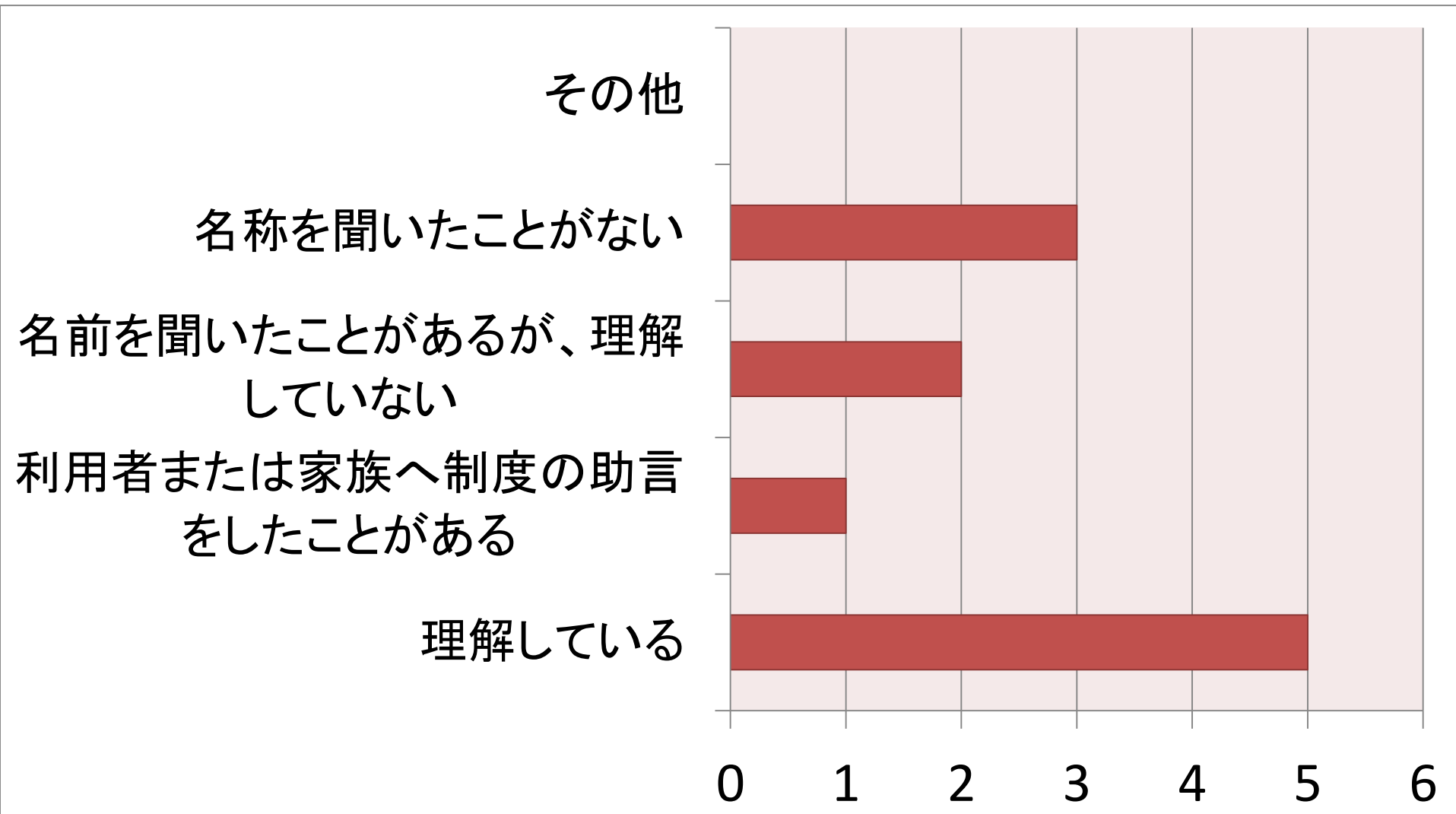
在宅医療で連携が難しいと感じる施設やサービス事業所について



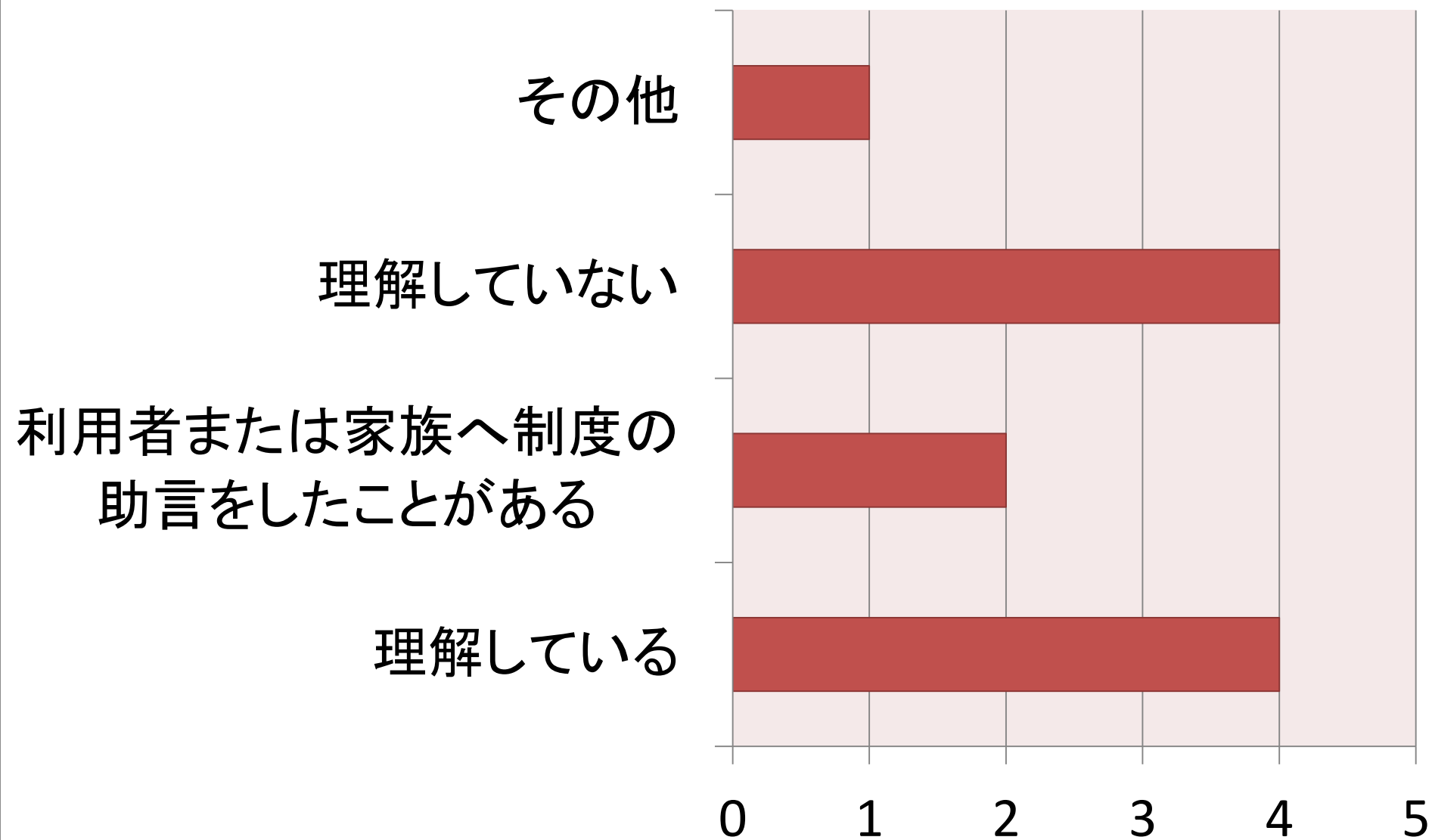
連携が取りにくい職種



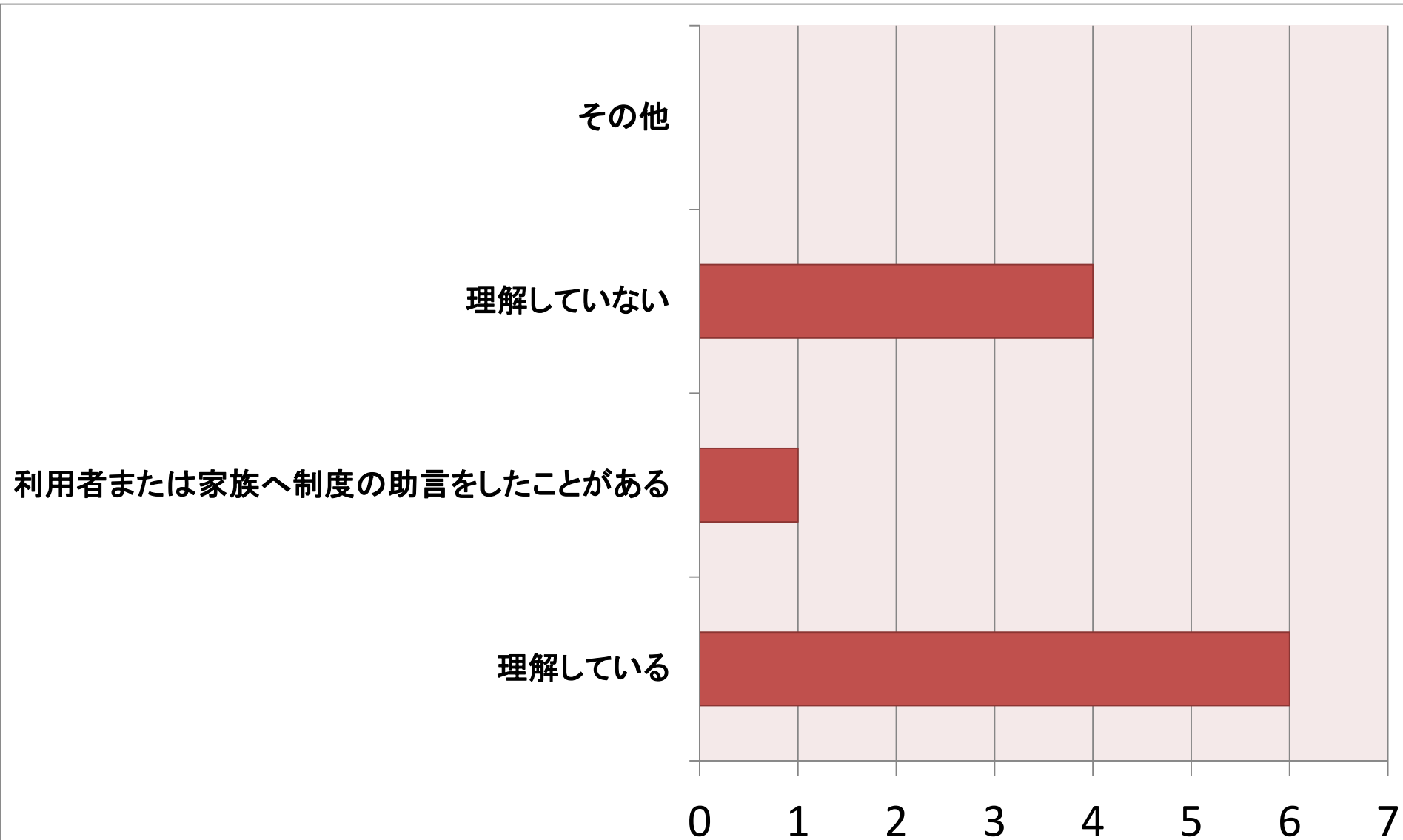
在宅療養支援診療所について



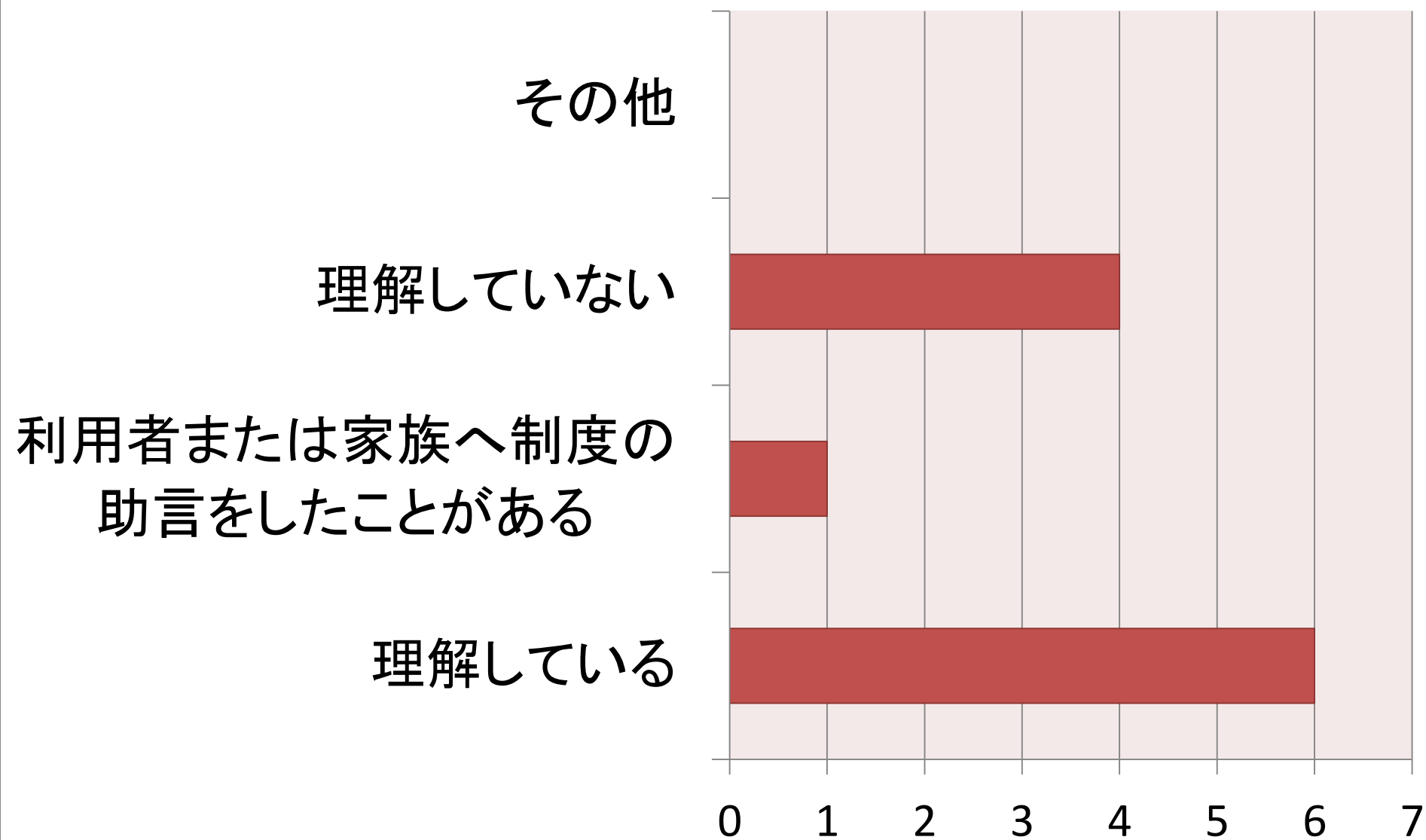
在宅患者訪問薬剤指導について



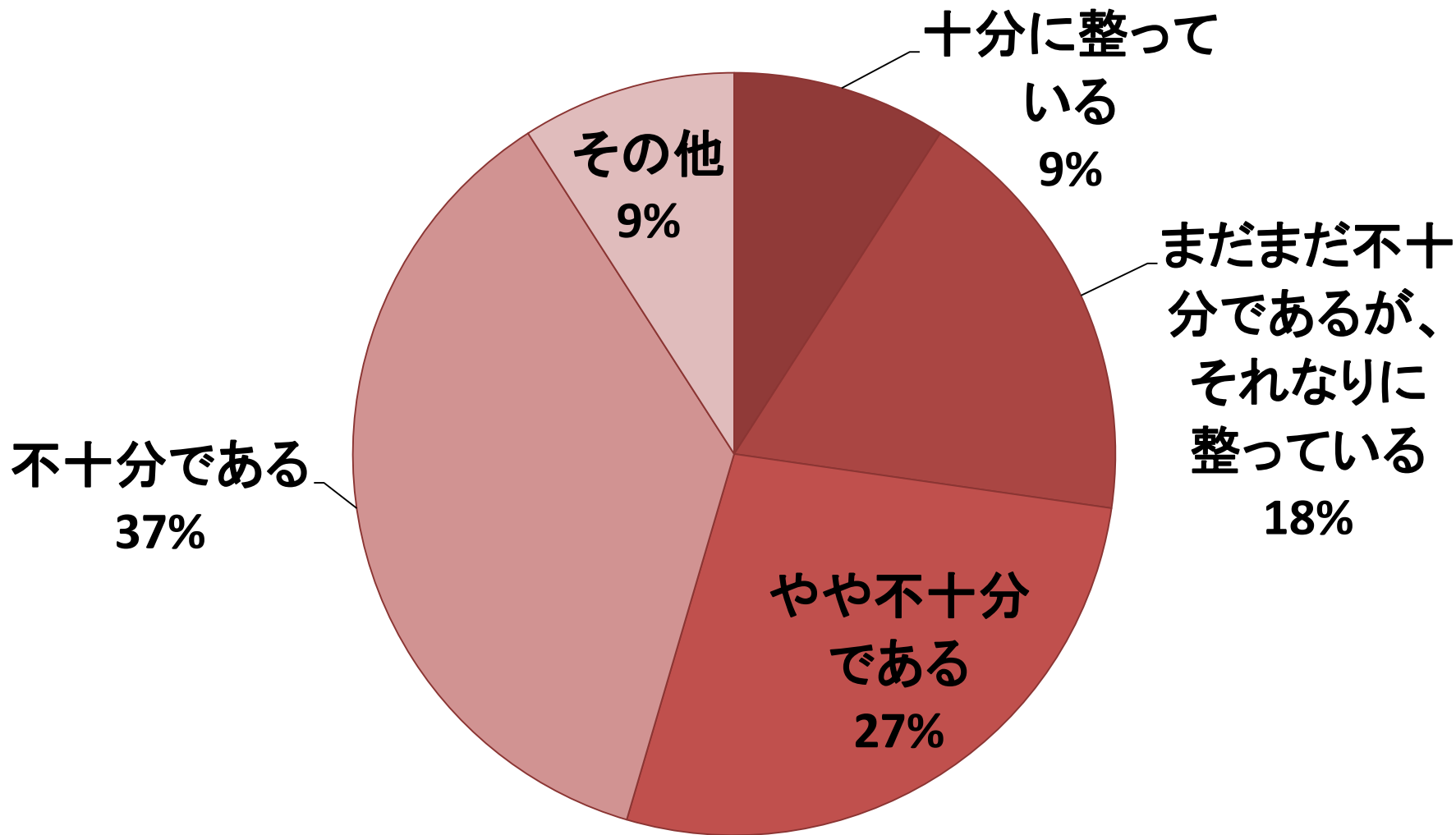
在宅患者訪問栄養指導について



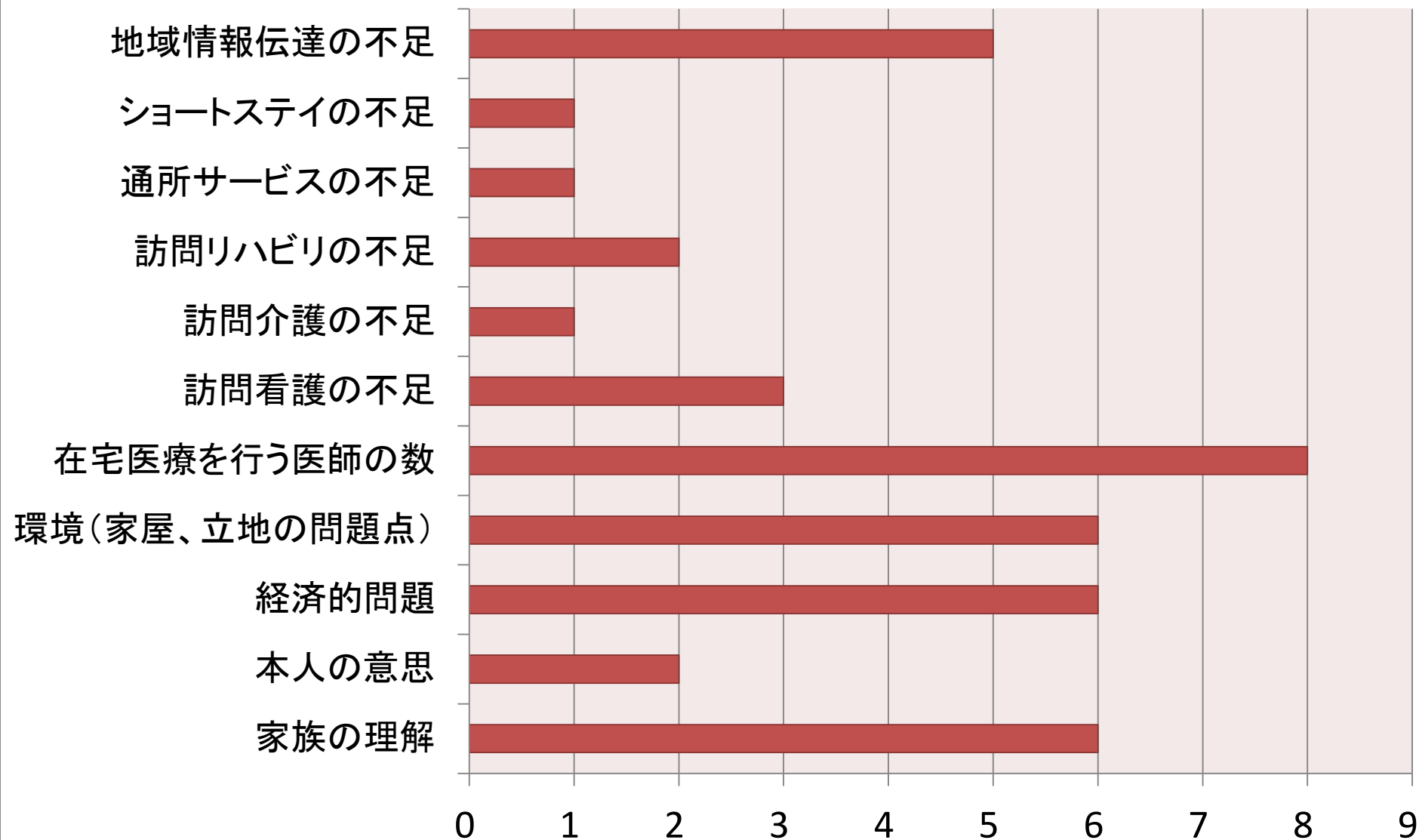
在宅患者訪問歯科診療所について



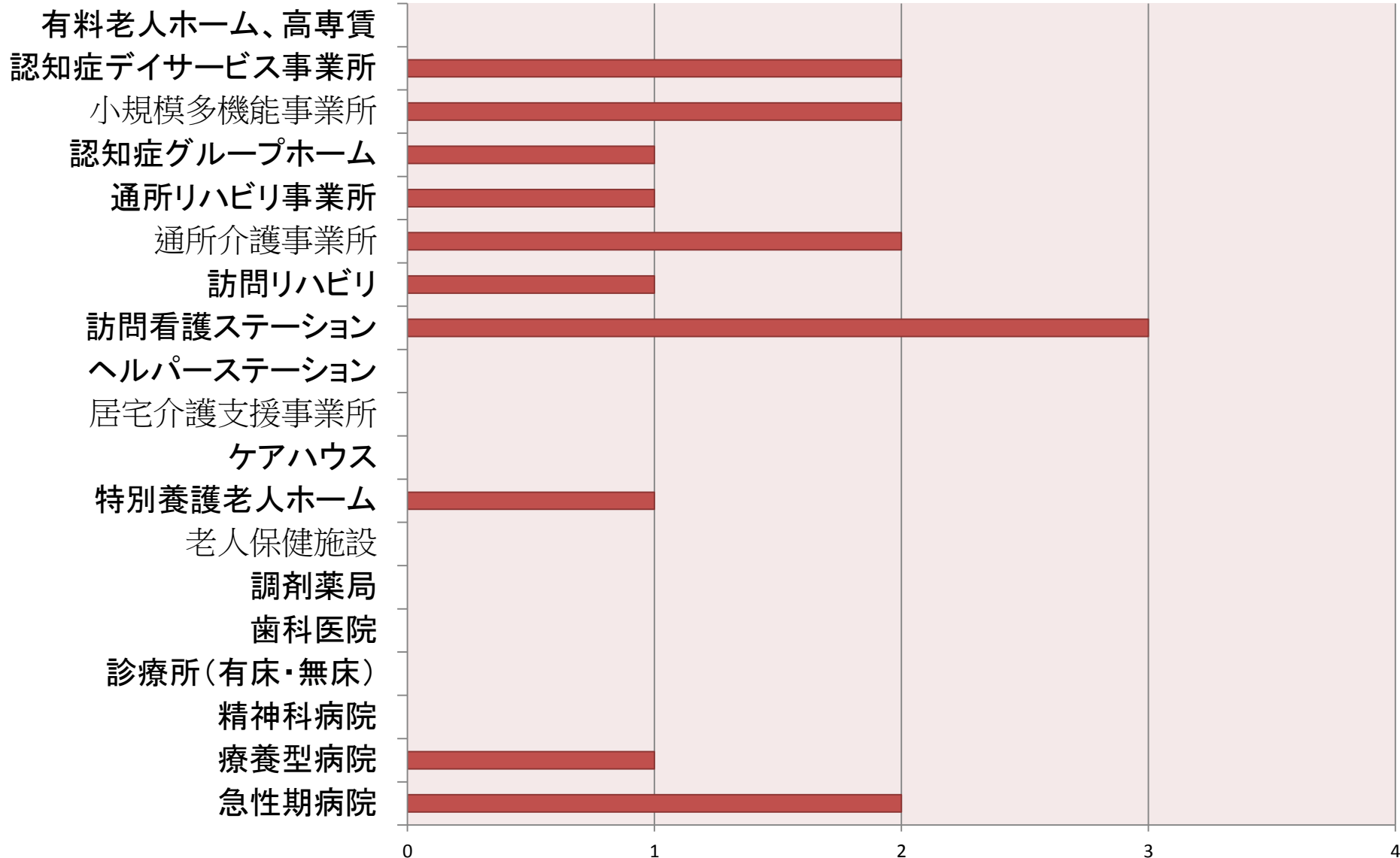
当地域における在宅医療資源の充足状況について



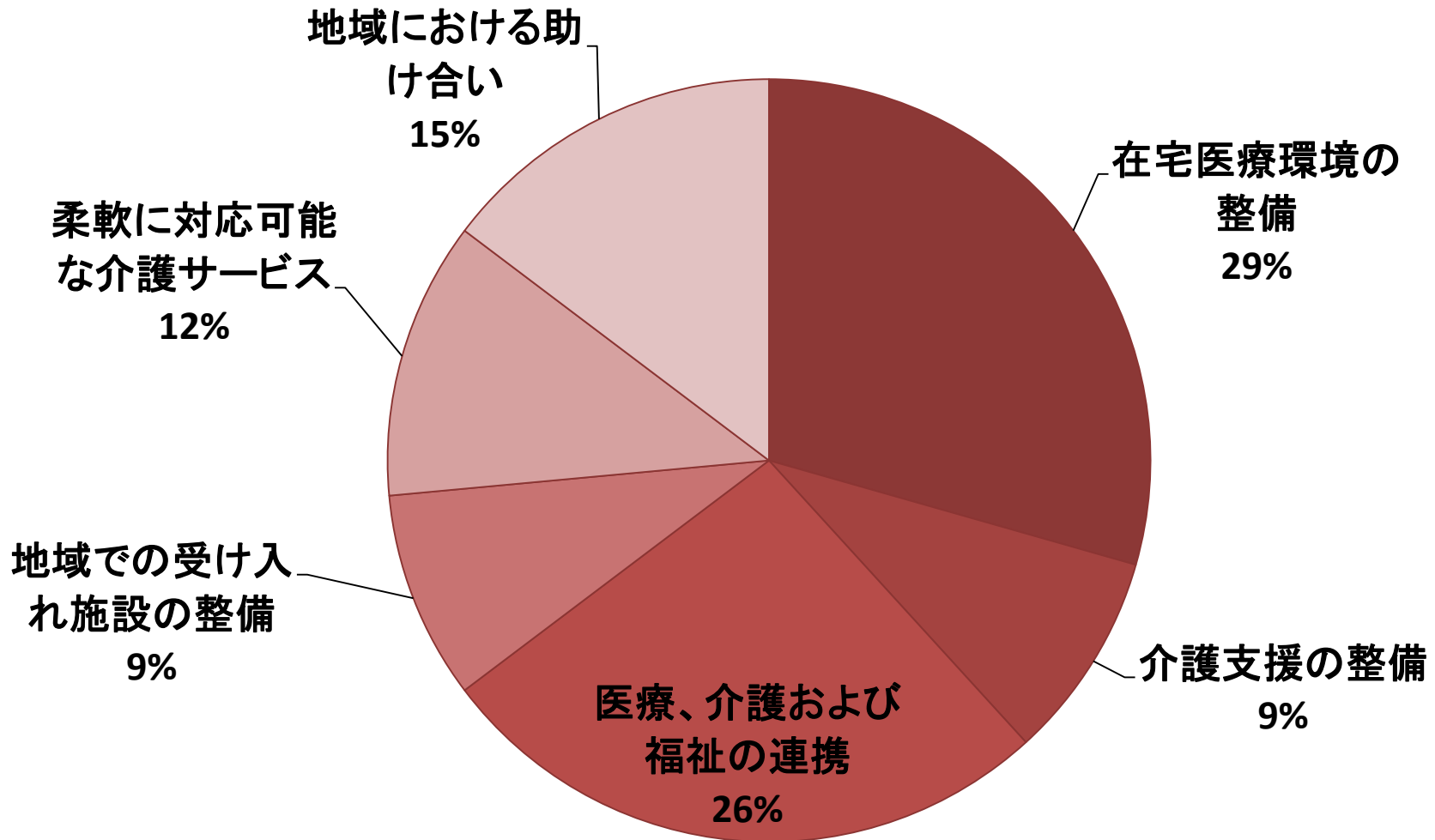
在宅医療を進める上での課題点



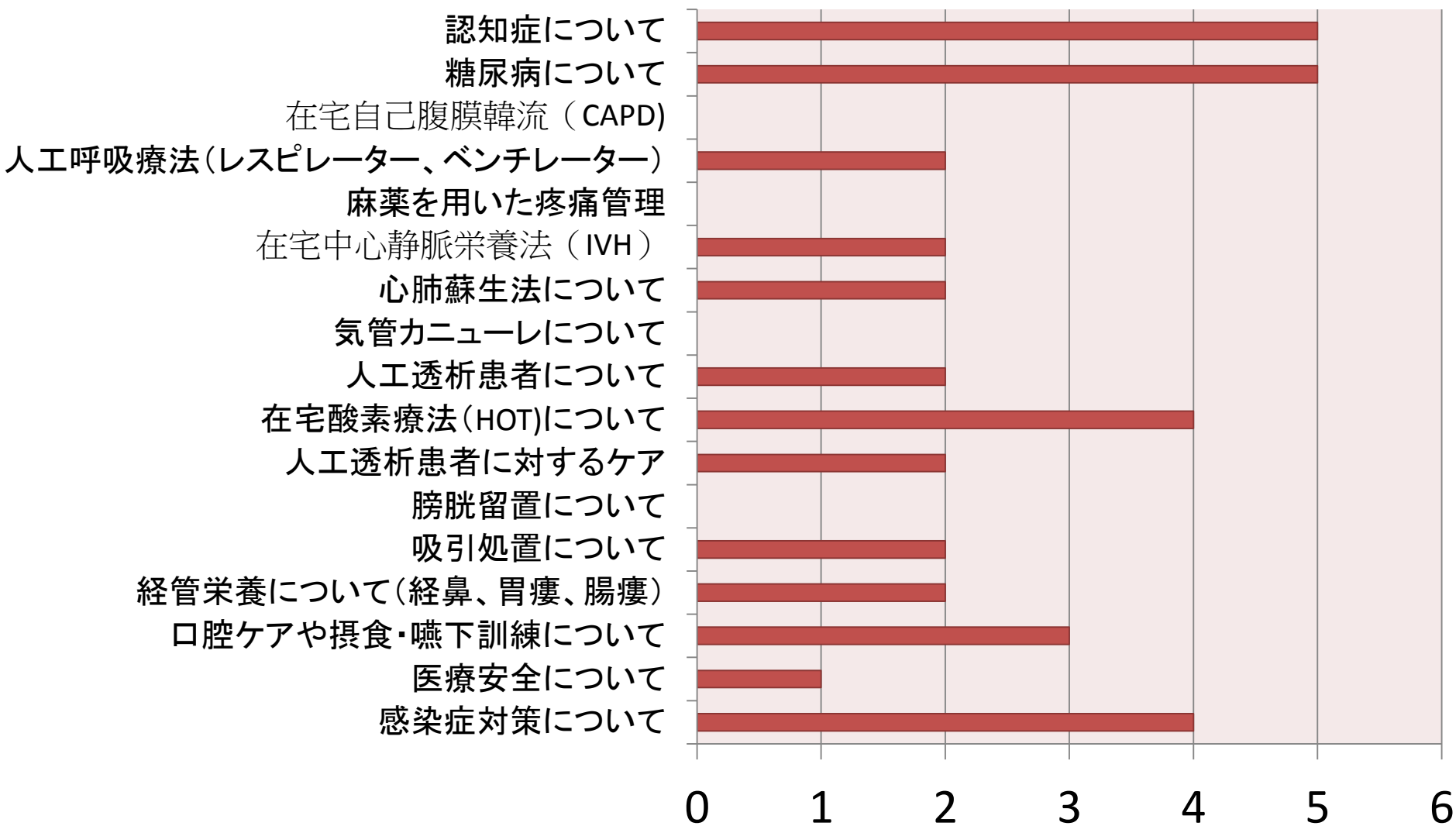
この地域で不足している施設・サービス



在宅医療または施設での療養生活選択のために必要な事項について



希望勉強会内容と興味のある内容



在宅医療を進める上でこの地域における課題と思われること

- 個人的に、医療面と在宅支援の内容の知識不足、医療と介護保険の関係
- 職種間の温度差
- 地域包括ケアシステムの確立
- ケアマネさんは医師からの情報をもらっていらっしゃるが、施設側は知りたいが情報が薄い。ケアマネさん同様の情報が知りたい。共有化によってより良いケアができるのではと考える。
- 医療依存度が高い方でも、安心してサービスが受けられるような介護サービスとの連携が必要と思う

介護場面から見る“在宅医療”はどのように感じているのか

- 今後の施設不足や財政難から、在宅医療を推進するという面もあるが、誰でも自宅での生活、自宅での最後を願う気持ちは強いと考える。自宅で介護・医療を必要な量を支援してもらえれば、大変素晴らしい事と考える。生活保障、医療保障、介護保障3つそろえば多くのひとが在宅での人生の終わりを希望すると思う。
- 国が思っていることが現実にできれば、安心した在宅生活が送れるようになると思います。
- 自宅で寝たきりの方に入浴やリハビリなどが利用でき、医療面において訪問看護などが受け入れられるようになると介護する家族の負担で精神面でも安心出来ると思います。また、ターミナルケアも出来るようになると利用者様も自宅で看取れるてしあわせだと思えます。
- 理想ではあるが、現実では難しいと考える。
- 地域密着し、在宅患者様のためにかかりつけ医、薬剤師、ケアマネ、ヘルパー、市、訪問看護師、同居家族、公民館、民生員、近隣の方々のサポートを受けながら、その方を守り、見守りを続け、異変に早急に気づき対応出来る環境作りが出来、その方、家族が閉じこもることなく元気で楽しい1日を過ごせることができればよいですね。
- 住み慣れた自宅で暮らせるのが一番ではありますが、重度な人の場合などは自宅ではリスクが高いように感じます。
- 医療の充実は当然ですが、在宅の継続には、福祉との連携は欠かせないものと思います。施設入所にたよらざる得ない現状に多くの課題があるのではと考えます。